

【5-5】

重要伝統的建造物群保存地区における住民の町並み
保全意識—高岡市吉久における事例研究その 1—

重伝建 町並み 保全
まちづくり 住環境 歴史

準会員 ○ 亀山 文音*
準会員 北野 まつ葉*
正会員 藪谷 祐介**

1. 研究の背景と目的

富山県高岡市吉久（以下、吉久）は、2020 年 12 月に国の重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建）に選定された。歴史的町並みを生かしながら吉久らしい暮らしを実現するためのまちづくりを進めていくにあたり、住民の町並み保全意識、まちづくり活動に対する意識、生活満足度、目指すまちの姿をどのように考えているかを把握する必要がある。そこで本研究では、そうした住民意識を明らかにすることで、今後まちづくりの方向性を検討するための有用な知見を得ることを目的とする。

2. 調査方法

吉久の 18 歳以上の全住民に対し、2020 年 11 月にアンケート調査を実施した。調査項目は表 1 に示す。

カテゴリー	アンケート項目
属性	性別 / 年代 / 職業 / 家族構成 / 世帯主か / 出身地 / 町内会 / 住まいの立地（放生津往來沿い） / 居住年数 / 建築年代 / 住まいの所有形態 / 自動車保有台数
重伝建	選定決定の認知 / 住まいの立地（保存地区内外）
町並み保全活動	保全すべきか / 活動参加の有無 / 活動協力の意思
地域活動・まちづくり活動	興味・関心のある地域活動・まちづくり活動 / 活動への参加状況 / 活動への参加意向
生活環境	生活満足度
目指すまちの姿	重要度の高い将来ビジョン

3. 調査対象地

3-1 概要

吉久は、高岡市中心市街地から北東へ約 5 キロメートル離れた小矢部川と庄川に挟まれた河口に位置し（図 1）、加賀藩の年貢米を収納する御蔵の設置により在郷町として発展し、米の重要な集散地として栄えた⁽¹⁾。

放生津往來の緩やかに湾曲した道に沿う町並みには、江戸後期までに形成された地割とともに、江戸時代から近代に建てられた切妻造り、平入りの町家が残し、高岡の小矢部川河口部に栄えた在郷町の歴史的風致をよく伝えている（写真 1）。また、伝統的建造物（建築物）49 件、伝統的建造物（工作物）4 件、環境物件 5 件が残っており（2020 年 12 月 23 日現在）、伝統的建造物群及び地割がよく旧態を維持していることが重伝建選定の理由となっている⁽²⁾。

3-2 町並み保全の経緯

吉久の町並み保全活動の萌芽は、1998 年に高岡市が施行した「高岡市町並み保存・都市景観形成に関する条



図1 吉久地図（地理院地図をもとに筆者作成）



写真1 吉久の町並み（筆者撮影）

例」に見られる。同年に「吉久の伝統的町並みを考える会」が設立され、1999 年には「さまのこアート in よっさ」を開催し、以後続けられている。2011 年には「吉久の伝統的町並みを考える会」と連合自治会が一体となった「吉久まちづくり推進協議会」が設立され、まちづくりワークショップの開催など住民主体のまちづくりを目指し取り組んでいる。2014 年には「NPO 法人吉久みらいプロジェクト」が設立され、空き家の管理や活用に取り組んでいる。また、重伝建選定を記念した絵本の作成を行うなど、吉久の歴史やまちの魅力の周知に努めている⁽¹⁾。

4. アンケート結果

アンケートの配布数 911 に対し、回収数は 737（うち有効回答 713）であり、回収率は 80.9%、有効回答率は 78.2%と、どちらも高い結果となった。

4-1 属性

属性についてのアンケート結果を表2に示す。性別は「男性」が46.8%、「女性」が53.2%で女性の割合が僅かに多い。年代は「70代」が22.1%と最も多く、「60代」が18.0%、「50代」が17.1%と続く。「80代」も11.7%見られ、60代以上の高齢層が約半数を占めていることが分かる。

職業は「会社員」が41.1%と最も多く、次いで「主婦（夫）・無職」が39.1%と、それぞれ全体の約4割を占めている。また、家族構成は「夫婦＋子」が25.9%と最も多く、「三世代」が18.5%、「夫婦のみ」が17.8%と続き、世帯主であるかの問いでは、「世帯主である」が41.7%、「世帯主でない」が58.3%であった。

出身地は「吉久」が42.5%と最も多く、次いで「富山県内（高岡市以外）」が26.0%、「高岡市（吉久以外）」が25.5%と続き、「国外」出身者も0.6%（4名）いることが明らかになった。また、町内会は「さくら台」に住む人が24.1%と最も多く、「西町」が15.7%、「日の出町」が15.4%と続き、立地は「放生津往来（旧街道）沿いである」が21.4%、「放生津往来（旧街道）沿いでない」が64.7%であった。

居住年数は「20～29年」が27.0%と最も多く、「30～49年」が25.1%、「50年以上」が24.6%と続き、20年以上住んでいる人の割合が大きいことが分かる。また、建築年代は「平成・令和」が44.8%で最も多く、次に「昭和（戦後）」が41.4%であり、建物は昭和（戦後）以降のものが全体の大部分を占めていることが分かる。

所有形態は「持家（土地付）」が88.1%で、全体の約9割を占めている。自動車の保有台数は「3台以上」が39.8%で最も多く、「持っていない」は6.2%であり、吉久のほとんどの住民が自動車を所有していることが分かる。

4-2 町並み保全意識

「吉久が重伝建に選定決定されたことを知っているか」という問いに対して、「知っている」と答えた人は90.6%、「知らない」と答えた人は9.4%であり、重伝建選定決定の認知度は非常に高いことが分かる（図2）。「住まいが重伝建保存地区内にあるか」という問いでは、「保存地区内にある」が19.5%、「保存地区内にない」が69.3%、「分からない」が11.2%であった（図3）。

「伝統家屋の多く残る吉久の町並みを保全していくべきだと思うか」という問いに対しては、「とても思う」が7.8%、「思う」が35.5%、「どちらとも言えない」が39.8%で最も多かった（図4）。「町並み保全に関する活動や説明会に参加したことはあるか」という問いでは、「ある」人が18.4%、「ない」人は76.0%で圧倒的に多い（図5）。「今後、吉久の町並み保全活動に協力したいと思うか」との問いに対しても「企画・運営に携わりたい」と答えた人は2.1%、「協力したい」と答えた人は14.0%で、非常に少ないことが分かる（図6）。

表2 属性

カテゴリー	アンケート項目	n	%
性別	男性	332	46.8%
	女性	378	53.2%
年代	10代	11	1.5%
	20代	52	7.3%
	30代	52	7.3%
	40代	107	15.0%
	50代	122	17.1%
	60代	128	18.0%
	70代	157	22.1%
	80代	83	11.7%
職業	会社員	289	41.1%
	自営業	45	6.4%
	公務員	11	1.6%
	主婦（夫）・無職	275	39.1%
	学生	14	2.0%
	その他	70	9.9%
家族構成	単身	52	7.5%
	夫婦のみ	124	17.8%
	夫婦＋親	64	9.2%
	夫婦＋子	180	25.9%
	自分＋親	84	12.1%
	自分＋子	49	7.0%
	三世代	129	18.5%
	その他	14	2.0%
世帯主か	世帯主である	292	41.7%
	世帯主でない	408	58.3%
出身地	吉久	301	42.5%
	高岡市（吉久以外）	181	25.5%
	富山県内（高岡市以外）	184	26.0%
	日本国内（富山県以外）	39	5.5%
	国外	4	0.6%
町内会	西町	112	15.7%
	寺中町	51	7.2%
	本町	58	8.1%
	日の出町	110	15.4%
	御蔵町	94	13.2%
	第一町	70	9.8%
	末広町	46	6.5%
	さくら台	172	24.1%
立地	放生津往来（旧街道）沿いである	148	21.4%
	放生津往来（旧街道）沿いでない	448	64.7%
	分からない	96	13.9%
居住年数	5年未満	55	7.8%
	5～9年	28	4.0%
	10～19年	82	11.6%
	20～29年	191	27.0%
	30～49年	178	25.1%
	50年以上	174	24.6%
建築年代	江戸・明治	14	2.0%
	大正	8	1.1%
	昭和（戦前）	35	5.0%
	昭和（戦後）	293	41.4%
	平成・令和	317	44.8%
	分からない	40	5.7%
所有形態	持家（土地付）	612	88.1%
	持家（借地）	69	9.9%
	借家・借地	9	1.3%
	その他	5	0.7%
自動車保有台数	1台	128	18.5%
	2台	246	35.5%
	3台以上	276	39.8%
	持っていない	43	6.2%

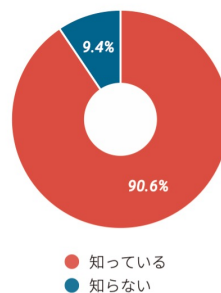


図2
選定決定の認知

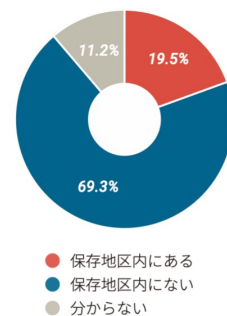


図3
住まいの立地（保存地区内外）

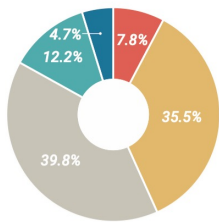


図4
保全すべきか

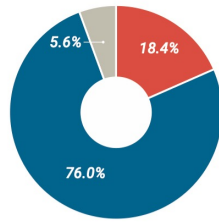


図5
保全活動参加の有無

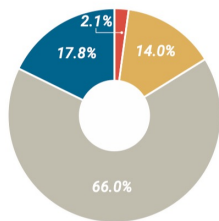


図6
保全活動協力の意思

4-3 まちづくり活動に対する意識

「興味・関心のある地域活動・まちづくり活動」については、「高齢者・障害者の福祉活動」が 23.3%、「お祭りなどの催し・イベント」が 22.4%の関心を集めていたが、最も多かったのは「特になし」で、30.7%という結果であった（図 7）。

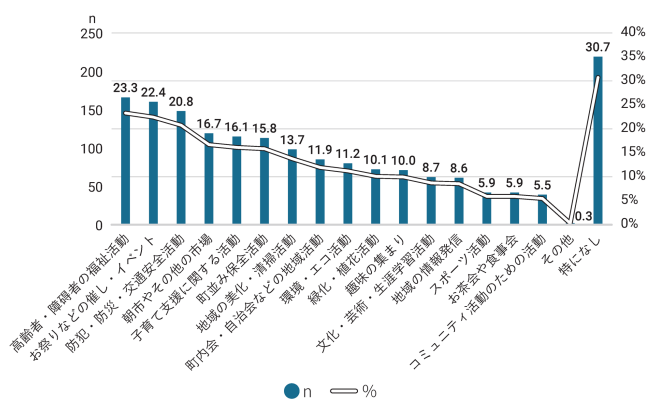


図7 興味・関心のある活動

「これまでの地域活動・まちづくり活動への参加状況」については、「企画・運営に携わっている」が 3.1%、「よく参加している」が 5.3%と少ない一方、「参加したことがない」が 51.0%と最も多く、約半数を占めている（図 8）。

「今後の地域活動・まちづくり活動への参加意向」については、「どちらとも言えない」が 54.4%と最も多く、「参加したくない・できない」が 33.9%である。「企画・運営に携わりたい」は 1.9%と非常に少ない。

また、参加状況と参加意向を比較すると、今後「企画・運営に携わりたい」と考える人は、現在「企画・運営に携わっている」人より少ないことが分かる（図 9）。

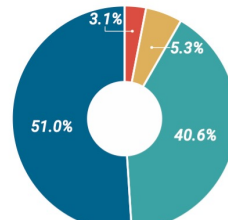


図8
活動参加状況

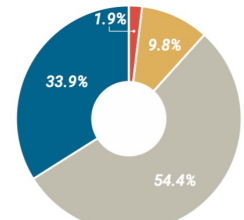


図9
活動参加意向

4-4 生活満足度

生活満足度について、各項目の満足度を「満足」5.0点、「少し満足」4.0点、「どちらでもない」3.0点、「少し不満」2.0点、「不満」1.0点として平均を算出した。

「地域全体の静けさ」が 3.5 点で最も評価されていることが分かる。「歴史や文化」の満足度も比較的高く、町並みや歴史文化を評価する住民が一定数いることが分かる。「買い物の便利さ」は 2.2 点で最も満足度が低く、「医療・福祉の充実度」も 2.4 点と満足度が低い結果となっている（図 10）。

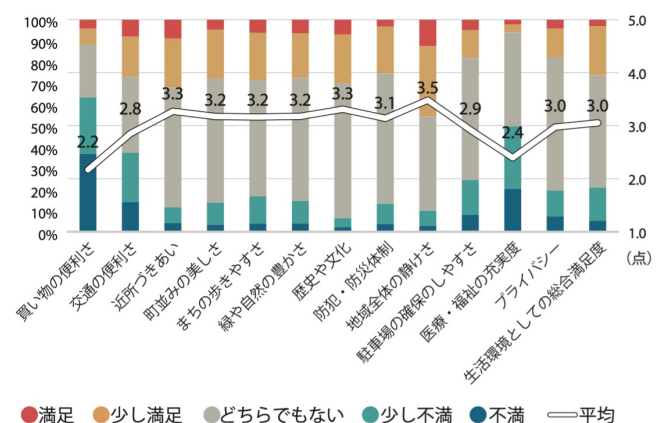


図10 生活満足度

4-5 目指すまちの姿

次に、吉久の目指すまちの姿について、生活満足度と同様の方法で重要度の平均を算出した。

「防犯・防災体制が活発なまち」「静かで暮らしやすいまち」がどちらも 3.6 点で、住民にとって重要度が高い

いことが分かる。「静かで暮らしやすいまち」に関しては、住民の生活において住宅地としての静けさが重要と考えている人が多いことが分かる。「高齢者に優しいまち」「子育てがしやすいまち」はどちらも 3.5 点で、重要度が高く、幅広い年代が住む吉久の特徴が反映されていることが読み取れる。「観光客で賑わうまち」「商業施設が多いまち」はどちらも 2.5 点と、まちの将来像としての重要度が低いことが分かる（図 11）。

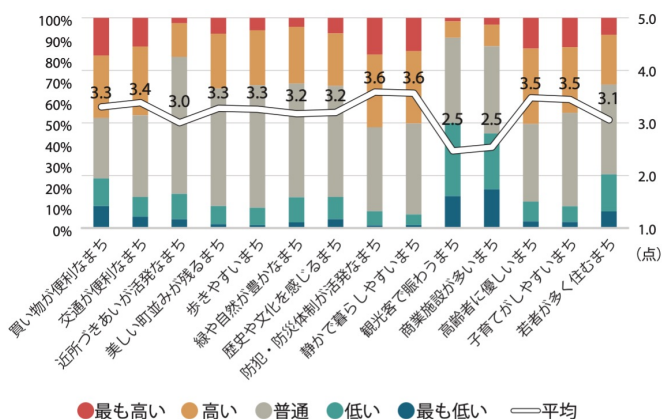


図11 目指すまちの姿

5. 考察

5-1 属性

年代については、60 代以上の高齢層が約半数を占めていることが明らかになり、全体として高齢者が多いことが吉久の特徴であると言える。また、年代と職業でクロス分析を行なった結果、「主婦（夫）・無職」を選択した 275 名のうち「60 代」が 47 名、「70 代」が 131 名、「80 代」が 72 名いたことから、全体で「主婦（夫）・無職」が約 4 割を占めている要因として、60 代以上の高齢者が多いことが考えられる。

重伝建でありながら、昭和（戦後）以降に建てられた新しい建物が全体の大部分を占めており、新旧の建物が混在している点は吉久の特徴であると言える。また、近年の新興住宅地などの開発が吉久外からの転入を促し、幅広い世代が住む地区となったことが考えられる。

5-2 町並み保全意識

重伝建選定決定の認知度は非常に高いことが分かったが、吉久の町並みを保全していくべきだと強く思う人は少なく、これまでの活動や、今後の活動に関しても、積極的な協力姿勢が見られる人は少数である。このことから、重伝建に選定されたものの、町並み保全活動の担い手が少ないことが分かり、今後伝統的な町並みを活かしたまちづくりを進めていく上では、いかに保全意識を醸成していくかが課題である。

5-3 まちづくり活動に対する意識

興味・関心のある地域活動・まちづくり活動では、吉久の住民に高齢者が多いことが「高齢者・障害者の福祉活動」に関心が集まっている理由であると推察できる。また、吉久では現在でも獅子舞や朝市など多くのイベントが開催されているため、「お祭りなどの催し・イベント等」への関心が高いと考えられる。しかし、最も多く選択されていた項目は「特になし」であり、地域活動・まちづくり活動に無関心の人が多いことが考えられ、このことはまちづくりに「参加したくない・できない」と回答した人が多いことから推察できる。また、そうした理由として、身体的・年齢的な理由や、仕事や趣味の都合から地域活動に時間を割けないことが考えられる。

また、参加状況を見ると「企画・運営に携わっている」と答えた人は少数であることから、一部の住民に負担が偏っていることが予想される。

5-4 生活満足度

「買い物の便利さ」の満足度が低い理由としては、吉久には高齢者が多く、付近に日用品を買える場所がないことが考えられる。また、付近に病院や老人ホームがないことが「医療・福祉の充実度」の満足度を下げている原因であると考えられる。

5-5 目指すまちの姿

「観光客で賑わうまち」「商業施設が多いまち」の重要度が低いことから、吉久の観光地化は望まれていないことが推察できる。一方で重伝建選定を機に観光客が増えることが予想され、「静かで暮らしやすいまち」の重要度が高い吉久における生活環境の維持が課題である。

6. まとめ

本研究では、重伝建に選定された時点における吉久住民の町並み保全意識、まちづくり活動に対する意識、生活満足度、目指すまちの姿を明らかにした。アンケート結果からは、吉久の重伝建選定が住民に広く認知されていることが分かったが、町並み保全活動やまちづくり活動に対する意識に関しては住民間で差があることが明らかになった。今後、伝統的な町並みを活かしたまちづくりを進めていくにあたり、町並み保全活動の担い手を増やすこと、保全意識を醸成することが吉久の課題であると言える。

参考文献

- (1) 高岡市教育委員会『高岡市吉久伝統的建造物群保存対策調査報告書（再調査編）』2020 年
- (2) 高岡市公式ホームページ ほっとホット高岡
<https://www.city.takaoka.toyama.jp/syoubun/kanko/bunka/jigyo/yoshihisa.html>（最終閲覧日：2021/03/16）

* 富山大学芸術文化学部 学部生
 ** 富山大学学術研究部芸術文化学系
 講師・博士（デザイン学）

* Student, Graduate School of Art and Design, University of Toyama
 ** Lecturer, Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama, Doctor of Design